

卷 頭 言

雑 感 あ れ こ れ

石 田 稔\*



全米鉄鋼労働組合の未曾有の長期ストに対し先日遂にタフト・ハートレー法が発動され、これに対し、国家緊急事態はまだ起っていない等々の理由で、組合は最高裁判所に控訴するといったような大変な事態が起っているが、米国鉄鋼業自体の苦悩もさること乍ら、関連産業への実害は想像以上のものがあるろうし、このあおりで失業者数も相当な数字にのぼりかけて来たようである。

去る 1952 年にも大規模な全米鉄鋼ストがあり、たしか 52 日位続いた筈で、この時は生産中止は 2 カ月以内であつたから、生産減はどうやらストックで切抜け、全産業の蒙つた打撃もさして大きいものではなかつたにも拘らず「これは会社側と組合側との馴合いストで賃上げは鉄鋼値段のつり上げでカバーされストック一掃のからくりだ」等と他産業からは陰口をきかれ世論も仲々厳しかつた。丁度その頃私はたまたま米国を旅行中であつたので連日のように掲載されるストの記事やら、労資の馴合いにストを野次つた風刺画など見ていたせい米国の鉄鋼ストと聞くとまざまざと当時の記憶も甦り、又他人さまの事などとすましておれぬ気がする。特に今回の長期ストは前回の場合とは様相を全く異にしているようで、スト開始以来既に 100 日を越え今のところいつ終止符を打つことになることか勿論わからぬが、今までのところでも胸算用をすれば月間 1000 万 t として 3000~4000 万 t の鋼材が出廻らぬとあれば、市場にも需要先にもストックは惧らく皆無状態で、特に特定鋼種のものなぞはもうとつくに底をついている事と想像される。何しろ鉄鋼需要量の桁違いな国柄だけに、仮りに 4 カ月生産停止となれば大変なことで、惧らく長期に亘つてその回復はつきにくいのではあるまいか。自由主義圏内の鉄鋼生産国の輸入を仰いでみたところで、到底間に合う筈はない。

勿論日本にも大部引合いがあるようであるが、残念乍ら余力は殆んど無いとの事であり、さもありませんとも思うし、みすみすなどと商人根性も出ると云うもの。ミサイル開発で万丈の氣を吐き月の裏側の写真まで撮つて見せているソ連では、自由主義国家とはちがつたものだと、社会主義万歳でも唱えているかも知れない。それにつけても自由主義は何より有難いことではあるが、ストは出来るだけ回避するようにして貰わねば困る。ストを起すには労資双方にそれだけの言分と理由はあるには相違なからうから、その会社なり産業だけで他に迷惑をかけないですむものなら、御自由におやんなさいですましておられもするが、これは大体に於て「人ごみの中の刃物騒ぎ」のようなもので、通行人が怪我をさせられるのがおちで、あたり迷惑も甚だしい。往々にして何の罪とがもない関連産業やら、忠実な傘下の協力工場に莫大な被害を与える。これは楽しかるべき日曜日のピクニックに交通業社のストで切角の一日を棒に振る民衆の被害どころの騒ぎではなく、為めに会社の倒産或は失業の憂き目にさえあう事もあり、しかも尻の持つて行きようのないひどいものなのである。往々にして見らるる新聞の切捨て御免の類にも似ていて、謝罪記事さえ出して呉れず当然のスト権行使とすましているかに見えるだけになお腹が立つ。自己の利益や権利を主張することは自由主義社会の特権であるから結構ではあるが、そのかわり忘れて貰つて困ることは、他人の利益や自由の権利を侵害せぬと云う事である。

終戦後日本の労働運動が盛んになつて、労働者の自覚が出来たことは詢に結構なことであるが、何しろ米国に教えられた労働運動であつて、自ら長年に亘つて培かつたものではないだけに随分行過ぎがあり、国民の一人として独りにがにがしく思う事が多かつた。それに引かえ欧米の労働組合員の自覚、特にスイス、西独あたりの組合の在り方等について見聞する機会があり痛く感心させられた次第であつたが、この道では先輩格の米国の今回の大ストライキに

\* 日本金属株式会社専務取締役

は深く考えさせられもし又いささか興覚めの思いでもある。扱ていささか脱線したので話を戻してこのストを思うとき、今更米国の鉄鋼生産力の大きさと、これを消化呑吐する産業機構の偉大さに驚嘆せざるを得ない。

月産1千数百万tと云う数字は躍進した今日の日本鉄鋼業を以つてして優に1カ年分の生産量であり仮りに4カ月4000万tの減産との勘定をすれば日本のその4カ年分が消滅したことに相当する。

それでも米国全産業が麻痺した様子もなく、今のところ主として自動車工業等の打撃を耳にするだけではあるが産業の基礎である鉄鋼のことであるから、実際には相当広範囲にわたつて打撃が大きかるべく国防上未発表の分野にも深刻なものがあるだろうことは、タフト・ハートレー法の発動がこれを雄弁に物語っているような気もする。それにしてもこれだけの鉄鋼生産設備を必要とする米国の地力は大了たものであると感心せざるを得ない。

これを思うとき日本の鉄鋼業も大に伸びられるだけ伸びる事がよいような気がする。何といつても産業の基盤は先ず電力、運輸そして鉄鋼であるからには、真先きに鉄鋼の供給力を充実させて置きたいものである。先年来鉄鋼各社の合理化計画の実行に当つて設備の二重投資論が盛んであつたが、結局合理化が出来上つた結果は時世もよかつたせいもあるが結果としては結構需要も延びている。勿論合理化がすすめられたのは世界市場における貿易競争に打勝てることを目途としているわけであるから、輸出を計ることによつて今後の合理化計画も成功の算、大なりと私は第三者の立場でひそかに考えている。

そんな次第で最近各社の長期計画を拝見しても別に眼も廻さずその成功を祈る次第であり、米ソ両国は別格としても世界鉄鋼生産国としてのランキングの第三位に到達するのは日本か、お隣りの中共かどちらか先かとまるで楽しい賭け事のような気持でいる次第。

顧みれば我国の輸出産業が戦前の軽工業から戦後の重工業に転位したことは、重工業関係者特に鉄鋼業界関係者の努力の賜も大きからうが時代の趨勢に依ることも見逃せぬ。この趨勢は今後鉄鋼を中心として益々伸張してゆくものと思われる。これには大前提があろう。「今後は世界戦争は起らない」これが前提条件でありこの大前提に立つてこそこの趨勢は坐折せず、この大前提のもとに於て始めて日本鉄鋼業の将来は実に洋々たるものありと断ぜざるを得ない。

量的に質的にそして低廉なる安定価額と云う鉄鋼の基礎が確立すれば鉄鋼を基礎とするすべての関連産業が一斉に伸張するに相違ない。

この意味で鉄鋼業界が率先して関連産業と相呼応して理路整然たる合理化大計画を発表し、且つ推進していただきたいものである。くどいようであるが「今後世界戦争は起らず」と云ふ前提こそは、すべての産業発展の基礎であることは申すまでもあるまい。これは人類の願望であり、特に原爆に身をさらした日本国民の悲願であるわけで、この点、米ソ両巨頭が冷戦休止の方向に歩み寄りを見せて来たことは何よりもよろこばしい事である。

私は戦争中身を持つて体験した惨たんたる鉄鋼業の実態を軍需省時代の焼残りの資料を手にするとき昨日の事のように思ひ出される。その当時、船舶喪失による原料輸送の激減、それに伴う熔鉱炉の休止、コークス炉の休止温存、原油、ガソリン等の輸入杜絶による輸送力の低下等すべての悪条件によつて遂に鉄鋼生産の大減産を阻止することが出来ず、国内に資源を持たざる日本の弱点を我々はつくづく味わされたものであつた。

数次にわたる行政査察等による戦時下に於ける減産防止のその最後の手段すらもその効果は爆撃、撃沈等による大損耗の前にはすべて水のあわの感があつた。この戦争に依つて初めて資源無き国のもろさがかつきり露呈された次第で、終戦後手足をもぎとられた狭隘な日本の国土に9000万人の人口をかかえ、一方賠償の義務を背負わされては誰しも第三等国民への転落を意識しなかつたものはあるまい。

然るにその日本が今日の日本にまで生長した。敗戦側の西独と日本が東西奇しくも相呼応して急上騰線で復興したことは何と云つても有難いことで敗戦直後の混乱に際しては誰が日本の今日の復興振りを予想したものがあろうか。いわんや今日の鉄鋼業の発展をや。あれもこれも貿易の伸張の賜であつた。資源を持たず食糧の自給すら出来ざる日本の生きる途は、ただ貿易の消長にかかつているわけであつた。

技術の進歩、そして勤勉が基礎となり低賃金も亦その道程に於ては止むを得ぬことであろう。9000万人で乏しきをわかつたためには、月給二倍論はとも角として貿易の伸張は当然、国民を富ましむることは論を待つまい。その貿易の消長は世界諸国との相互信頼の上にかかつているわけである。

日本の学術技術の進歩も、国民の勤勉も、すべては世界平和の温い土壌を得て始めて芽生え且つ繁茂するものであることを、その主要原料を外に求めざるを得ない日本の鉄鋼業界に身を置くものとしては特に忘れてはなるまい。